

頼朝装束の新調

頼朝装束 (狩衣1領・単1領・奴袴1腰)



頼朝行列の中心となる頼朝公は小学5, 6年生の男子が務める(毎年変わる)。現在の装束は昭和52年に新調してより約半世紀が経過し、補修を繰り返してきたが、傷みや補修跡も目立つようになってきた。また、新調した当時に比べ、この年代の平均身長も伸び、着付けがかなり困難になってきている(袴丈が73cmでかなり短い)。



また、現在の装束は黄金色で狩衣に似た形ではあるが、江戸時代の祭礼図などでは緑地に金色の紋が入った狩衣が描かれている。

これらのことから、今回江戸時代の祭礼図と神職の服制を参考に、頼朝の装束一式を新調する。

頼朝は関屋町と西八町が二年おきに交代で奉仕する。



【吉田名蹤綜録】



【旧式祭礼図絵馬】